应

○鴨庭春花鶯藍車春イ夕○夜春花春外金漆突有花ド武 一一桜灯吹愁に紋黒堤明のリ者 の下雪を出のののの雪 + ^{− さ}げ を さし る 巨ん る 石と 春桜 のとを変している。 へき が落す へる 花砂に草芽 天七とき光耀 守彩した浴へて見降けで来 閣にててぶりり船るりくる

なは百きわ雅宏ぽせ三よう

き子合なば流虎こじ刀女ぎ

づか

んい

しつ

万 六

二川あ 秋のの深窓愁ヤ日 三のベンチにいちこちいま水愁 や 櫓 に …の下ゲートボ やリッキ四 下 声 年 67 中四月五日 ま 花 c ま 花 c 水 面 ・ ト 覚 ボ ェ水仙のボール のやが大 めに にら川 ナ し映 さ咲染 1 にれく ス花手の旅 手が治る 墓 土 の佐に 花明 のか斧弾ま初き供水け 昼り痕むり桜ぬ花木り

満あう三せよ美あこは

V) L

天こぎ刀じ子咲こ

は菜百よわよ しかし 子々合女ば子

水月春百つ芽

ち柳

ふるや 肩

Š

水おの

句にこ

5 L

· け

る声り鱒く町

l

淀縁を

のに濡

0

育ろれ

ちの

島 も

なす

こごと 吸下

城

き

月四

○川町揺春春 嵐 昼 .. 、ぼ ろば地卵 に団音に産 点地の る百そけた 雪 棟 うつる 灯なの鶏 花転の タり層ぶこ 朧て木音ゑ

満菜とあ雅

B さ

天々えこ流

年 兀 月三 日

○ワ大春花あ 一イ楠雷東ち みがく ゐ庭春 必らたの塵 死にる小の の百脳手老 春千天毬眼 嵐鳥にも鏡

つく

<

す子

さ

野酒ウ初城瀬○片膝飼愛純ま雨 脚揺育づ白す晴 ねっちゃく 春花園く のう剪や花春 の冷ら定な菜の 虹えら師ぎ風潮

つ

キめ隙の 向 ・ が 川 の で す ギ 小 時 々 き ま大 堰 ず窓花 を 語掠に石 やに りめ草風 の来かけ青光 風るけりむる 満雅つ雅わつ < かく

天流し流ばし

点蔵オつ塁洗

」ばのひ

毎日句会みのる選・二〇一二年 应 月 九

ん

有宏ぽこする ょ L b 香虎こず女

有ななせはああ つついくおさ 香ききじ子いこ